



それぞれの特色を生かして発展する熊本港・三角港・八代港・水俣港

港は、海と陸を結ぶ要所。貨物や旅客の輸送など、地域の経済発展・県民生活の向上に欠くことのできないものです。県内には合計五十四の港があり、これは全国五位の数です。とは言え、物資輸送での海の利用が遅れているのが現状。今、各地の港で地理的条件や特色を生かした整備がなされています。今回は県内の重要港湾、熊本港、三角港、八代港、水俣港の四港について見てみます。

●本格マリナーや海上都市も未来指向型の熊本港

熊本市の中心から西へ一四段、白川河口の南側に位置する熊本港は、熊本市圏の海の玄関口として現在建設が進められています。百二十七号におよぶ人工島には、貨物を扱う岸壁や倉庫等の施設が建設さ

●新旧の建設技術の粋が見られる観光スポット・三角港

三角港は別府―阿蘇―雲仙を結ぶ九州横断観光ルートの中継地。定期旅客船や三角―島原間にフェリーが就航しています。年間に八十二万五千人が三角港発着の定期航路を利用しており（平成二年）、県内では最も観光色の強い港です。平成二年には、新しいフェリーターミナル「海のピラミッド」も完成。「くまもとアートポリス」の対象建造物でもあり、三角港の新しいシンボルになりました。

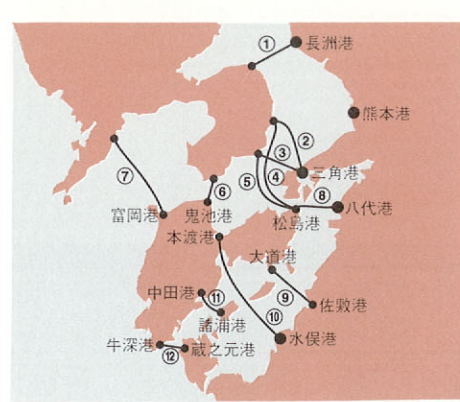
●南九州拠点工業地帯として、期待される八代港

八代港は年間の取扱貨物量が約四百万ト、県全体の約四六％を占める活気ある工業港です。八代市では今、この八代港を拠点とする産業基盤の整備が進んでいます。特に、県が造成した工業団地の中で最大の「八代港大島南臨海工業用地」も売却し、現在建設中の企業が操業を開始すれば、南九州拠点工業地帯として、地元経済の発展に大きく貢献していくことが期待されます。

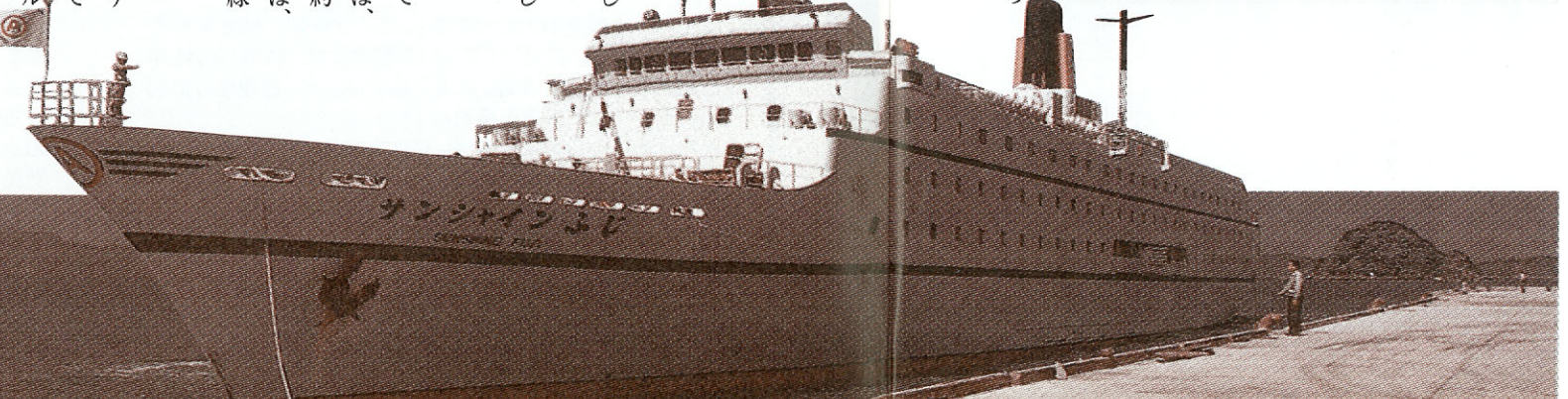
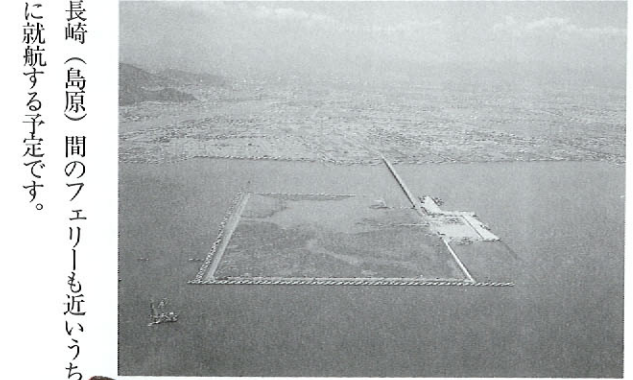
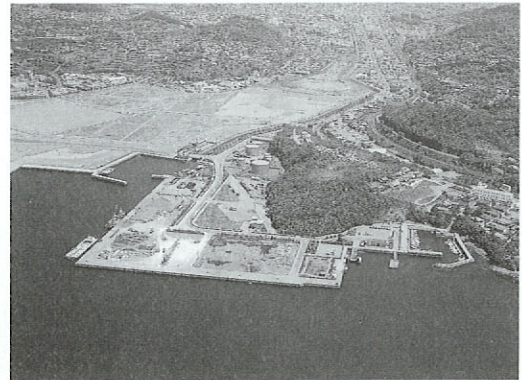
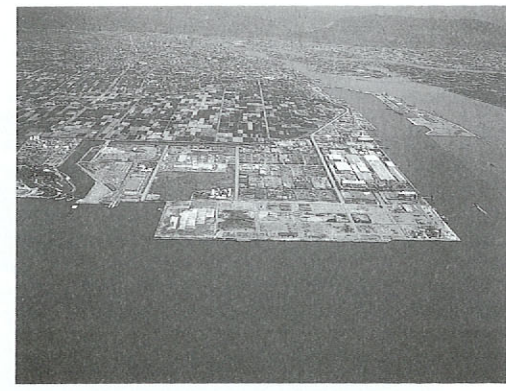
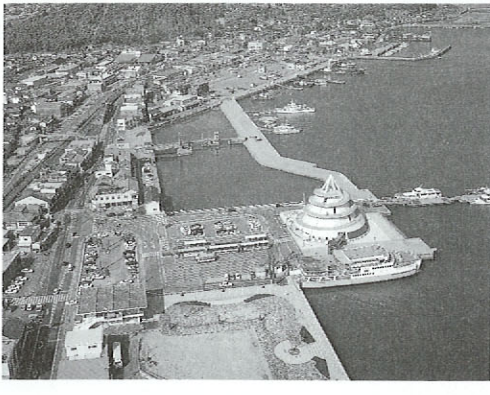
●環境再生のシンボルとして―水俣港

水俣港は年間の取扱貨物量が約百万ト、それも主に工業原料を扱う、いわゆる工業港です。県南の重要港湾として大きな役割を担っていますが、今、水俣市の「街おこし」のシンボルとして大きく姿を変えようとしています。平成二年、公害防止事業によって、水俣湾の一部、約五十八号の埋め立て工事が完成しました。この埋立地には、親水緑地公園（約二・七ヘクタール）、竹林園（約四ヘクタール）が造成され、その他の敷地には、県民の健康づくりの場として、公園緑地の整備が進められています。

また、三角町の西に位置する西港は、明治二十年、オランダ人水理師ムルドルの技術指導によって作られた古い港で、今でも当時の石積みの中世の埠頭を見ることが出来ます。付近には旧宇土郡役所や龍驤館など、明治から大正にかけて造られた洋風建築も残っており、臨海公園として整備が進められています。



島々を結ぶ航路や長崎や鹿児島への最短距離でもあるフェリー航路は車・旅客輸送の大事な役目を担っています。
①長洲―多比良（長崎県）②三角―島原（長崎県）③三角―須川（長崎県）④松島―島原（長崎県）⑤松島―須川（長崎県）⑥鬼池―口之津（長崎県）⑦福岡―茂木（長崎県）⑧八代―松島⑨佐敷―大道⑩水俣―本渡⑪中田―諸浦⑫牛深―蔵之元



なるほど海上の道

■地域経済の活性化に貢献する海上輸送

例えば、10,000トンの船が、3日間港に接岸し、1,000トンの貨物の荷揚げと荷積みが行われた場合、約1,000万円の経済効果があると言われています。港湾の整備充実が地域経済の活性化をも促します。

■外国航路の船にロマンを求めて

大型外国貿易船が多く出入港する八代港。とうもろこしを積んだアメリカの船や木材チップを運んでくるオーストラリアの船。中国、インドネシア、遠くはチリからもやってきます。外国の旗がはためく港は、日本に居ながらにして異国情緒が味わえるところかもしれません。

■輸送コストが安いと物価も下がる

大きな貨物を大量に、一度に運べるのが海上輸送のメリット。例えば、柑橘類を出荷する場合、現状のルート（対象地区は関東）を使うと100円かかるところが、熊本港を利用すれば59円で済みます。輸送コストの低減は商品を安く提供することにもつながります。

